

消化器癌早期発見のために

コロナ禍が続いている現在、受診控えからくる癌の早期発見率の低下が問題となっております。コロナトンネルの出口がまだ見えぬ現状を考え、毎年の健診は是非受けて頂きたいと思えます。

癌と言いますと、消化器系の癌が多いです。癌死亡数の順位を見ますと、1位は肺癌ですが、2位大腸癌、3位胃癌、4位膵臓癌、5位肝臓癌と5位以内に4つの消化器癌がランクインしています。そこで今回は消化器癌についてのワンポイントアドバイスと難治癌と言われている膵臓癌について少し詳しく解説したいと思います。

食道癌は飲酒・喫煙の関与が強く言われており、ヘビースモーカーや大酒家の方（過去も含めて）のリスクが高いです。年1回の胃カメラをお勧めします。近年普及している経鼻内視鏡（鼻からの内視鏡）は比較的楽に胃カメラが受けられます。食道癌に併発しやすいとされる咽喉頭癌の早期発見にも寄与しています。

胃癌はヘリコバクターピロリ菌による慢性胃炎がハイリスクとなります。除菌後の発癌もありますので注意が必要です。こちらも年1回の胃カメラをお勧めします。胃カメラを受けたことのない方は、ヘリコバクターピロリ菌感染がないか一度検査を受けてみて下さい。迅速検査でその場で感染しているか判明します。1週間の除菌治療で9割以上の除菌成功率、失敗しても薬剤変更で100%に近い除菌成功が得られています。

大腸癌は増加傾向（癌死亡数女性では第1位）にあります。健診の便潜血検査は重要ですが、大腸カメラを受けて頂くことも重要です。癌の芽となる大腸ポリープ（腺腫）の内視鏡切除により予防可能となります。1回大腸カメラを受けてみて下さい。当院では鎮静剤、鎮痛剤も使用して楽な内視鏡検査を心がけています。

肝臓癌はB型・C型肝炎の方にリスクがあります。治療後や落ち着いている方でも発癌ありますので、最低年1回エコー検査や血液検査（腫瘍マーカー）を受けることをお勧めします。アルコール性肝炎やある種の脂肪肝からも発癌があり注意が必要です。肝臓は沈黙の臓器と言われていしますので、検査を受けないと異常の発見は遅れてしまいます。簡単にできるエコー検査を是非受けてみて下さい。

胆嚢・胆管癌の頻度は少ないですがかかると厄介な癌です。肝障害や黄疸で発見される場合が多いです。胆石やポリープがある方、胆嚢の壁が厚いと言われた方は定期的な検査をお勧めします。こちらも年1回のエコー検査で早期発見が可能となります。

現在癌の早期発見で最も出遅れている難治癌に膵臓癌があります。膵臓癌は増加傾向にあります。発見時進行癌であることがほとんどです。治る膵臓癌を発見するためには、早期発見が必要です。膵臓癌の場合、1cm以下で発見してはじめて予後は改善すると言われていますが、1cm以下の膵臓癌を見つけることは至難の業です。1cm以下の膵臓癌を見つけるために重要とされているのが、エコー検査と膵臓癌リスクファクターです。まず年に1回健診などで、エコー検査（またはCT）を受けて頂くことが重要です。膵臓癌のリスクが高い方として、ご家族に膵臓癌がいる方、糖尿病の方、膵のう胞疾患や慢性膵炎の方が挙げられ、特に積極的に検査を受けて頂ければと思います。

癌はこわい病気ですが、早期に発見できれば、内視鏡での治療が可能な場合も多く、根治も可能です。そのためにも是非定期的な検査を受けましょう。